



特集

蒲郡を“事業地”として読み解く
【第1回】



ミデコクリエイションズ
社内報

ミデコの日々の取り組みを
知っていただくため、
社外にもお配りしています。

蒲郡を”事業地”として読み解く

晴れの日が多く気候温暖、さらに山海の変化に富んだ景観や土地の味覚にも恵まれた蒲郡。

ishin-denshin ではそんなユニークな事業者様をいくつか選び、ケーススタディを試みました。



どういった事業をされていま
すか？

「木工屋です。器のような生
活道具から雑貨、家具の製作、
旅館や飲食店など建築物のプ
ロデュースまで、依頼に応じ
てできそうなことはやらせて
もらっています。卸のほか、全
国各地のギャラリーなどで展
示即売もしています。数年前
まで東京にショールームを
持っていたことからお客様は
遠方の方が多いのですが、都
心部の展示会で地元に縁がで
きることもあって逆輸入のよ
うな現象も起きたりしていま
す。65歳になるのを機に木工
を学びたい方を対象に木工塾
を始め、これまでに30人ほど
が巣立つていきました。今も
2名が在籍していて、これが

なぜ事業拠点を蒲郡にされたのですか？

「生まれ育った場所でしたし、地名を工房名にしたくら
いことが好きだからです。自分はその頃から地産地消的な
経済のあり方を理想にしていて、手工業的な〈町工場〉を作
りたいと思っていましたよ。蒲郡には織維という重要な産業もありま
すし、当初は木工のほかに三河の織維製品をモチーフに創作をしたりも
していて、それで、市や協会に企画を持ち込んだこともあります
るくらいです。残念ながら、ほとんど取り合ってはもらえ
ませんでしたけれども（笑）。

最初は現在の工房の近くに
あつた実家の敷地に作った小さな小屋から事業を始めま
した。今も場所は変わって
いません。

8年後に移転し、自分たちで少しづつ建て増して今の形

「創業当時もそのようなものはあつたように思ひますが、使いませんでしたね：手間に思へたんですかね」

「蒲郡で事業をされていることに満足されていますか？」

「起業にあたつて利用した制度などはありますか？」

「ギヤラリーも後から作りましたし、2階は宿所にして塾生が寝泊まりしています」

第1回



有限会社工房塙津村
代表
IZAKI Masaharu
井崎 正治

作家やアーティストと呼ばれることを好まず「木工屋」を自称する井崎正治さん。作品同様の柔らかい物腰が魅力。現在は工房仕事のほか、長野県上田市で飲食店の建築が進行中。家具を含めた空間プロデュースの依頼も多く手がけてきた。



井崎さん(写真中央)と塾生のお二人。工房の魅力を塾生に尋ねると「気取ったところがなく、ここで作られたものをただ気持ちよく使ってほしい、という親方の姿勢」(写真右:黒田岬さん/岡崎市出身)、「フリー手帳ならではの、温かい作風」(写真左:山田太志さん/東京都出身)のこと。お二人ともInstagramに作品有。ぜひ検索してご覧ください。



▲木皿やカトラリーをはじめ、テーブルコーディネートの核となる存在感のある器や折敷、空間の雰囲気を和ます彫塑など。手に取りやすい価格帯のものも多い。



▲近くに国道が通る前は、農道のはるか奥にある地味な大きな建物。全国のギャラリー運営者等、遠方ナンバーの車が出入りしていることで不審に思われたのか、ある時期には宗教関係ではないかと怪しまれて警察の立ち入りが入ったこと也有ったと言う。

もつとこうなるといいと思う
ところはありますか？

蒲郡でよかつた、と思うところはどういうところですか？

に海があるという環境があたりまえで大事なことなので、都会に行くと空気が違います。ここにいると、潮の匂い、草木の匂いなど個別の匂いを感じることができますが、都会ではすべてが混ざって何の匂いかもわからない。僕にとってはそれはストレスなんですよ」

「木工に關して言うと、愛知は木材の市場も多く、全国からの材料の集積地だということです。自分の創作には基本的に県内、奥三河など地元の木を大切に使うようにしていますが、依頼の場合など、選択肢が豊富なのはありがたいことですね」

「産業振興」ということで考えると、商工会議所の会報誌など、もう少し違うコンテンツが考えられるんじやないかなとは思いますね。クラフト市にしても、お祭りで終わるものでない、もっと蒲郡らしい、この土地に暮らすことを真剣に考えるような捉え方があるのではないか、とも思いました。目的意識をきちんと共有したり、できるだけ長期のスパンで物事を考えながら進め



▲おもてなしとして出されたスープに添えられたスプーンの使用感がとてもよく、にわか編集長もつい自宅用に購入。金属とは違う、心をほぐすやさしい口当たり。カチャカチャ音がしないうえ、和洋どちらの食卓にも合わせやすい良品です。



塩津村だより




井崎正治


取材／文：牧原 恵
写 真：山本兼佑

おしゃべり
おもしろ
おもしろ
おもしろ
おもしろ

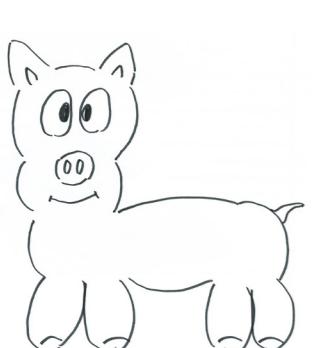
お題

2026年に絶対やること



第113回

記憶画
This is URO OBOE



挑戦者:大河内さん

何かわかるかな?
答えはP.7左下を見てね。



おいしいの物差し。

2025秋のドラマ「じゃああんたがつくってみろよ!」ご覧になられましたか? ドラマ自体の評は大家である弊社大河内に譲るとして(?)、食回りに登場人物の人間性が見て、食べるの大好き人間としてはとても興味深く視聴いたしました。

例えはドラマ中で火種となった「食卓が茶色い」問題。私、思春期くらいのころマジで親に対してこれ言ってました。とはいえたとして自分で作っていて時にそういう日もあり、そうなると人に指摘されるのはイヤなので逆に自分から「今日色合い地味でごめんね~」とかわざわざ言ってました。同居している家族からは常にどうでもええなんですけど。

大人になり外では大分わきまえるようにはなりましたが、ともあれ勝男くんの細々したコダワリ、昔の自分を見ているようでなかなかに冷や汗モノではありました。ここまで縁あって一緒にごはん食べる機会があったひと、またこの先あるかもしれないひと、もしウザいこと言ってたら本当ごめんなさい。

つくづく、「おいしいの基準」って人によって本当にそれぞれ。みたらし団子は一串に4個か5個か、イワシの刺身は生姜か山葵か、私は大好きですがチョコミントなど理解不能という方も相当数いますよね。それぞう物差しを持っている前提は受け入れて、でもだからこそ「おいしいね」と共感しあえる人はきっと一緒にいて居心地のいい人でしょうしね。どちら様も無駄な衝突は避けつつ、おいしく食べて生きていきましょう。

にわか編集長コメント

世の中には苦手な食材がある人がけっこういるようですが、個人的に苦手な食材がほほないことだけはとても幸福なことだと思っています。近頃害獣扱いの熊も、機会があったら食べてみたい…



祈・2026年も!!

2025年は11月にライブ行ってました。名古屋です。2日目です。久々のドームツアーリー! 常滑も良かったけど、やっぱパンテリンはいい! そしてそして…今回の供は、なんと初のオット! そう、夫婦でB'zお二人のご尊顔を拝みに行ってきました。

松本さんの復帰祝いツアーでもあった今回は、倍率がまたグンと上がっていたようで、FC優先をもってしてもまさかの「チケット取れない」エピがXに溢れておりました。…にしても、会場はすごい人。さらに今回初めて導入された物販システム(当選者優先)であちこち難民と化しているミドルたちの群れ。「どういうこと?」「もう私順番来てるはずなんだよね」という困惑の声が四方八方から聞こえている。無論私とてわかりはしない。無心で前進していると、親切な参戦者の男性が「時間来ますか? このまま進んでいいみたいですよ」と教えてくれ、「ありがとうございます! なんかわかりにくいですよね」と共感しているところへ同じような境遇の若いお嬢さんが合流し「お姉さん、一緒にいきましょうか!」とアテンドしてください。岐阜から朝イチで来た、という彼女と初参戦ライブが何だったかという話題で盛り上がり、無事に物販の列に並ぶと「じゃ、楽しめましょうね!」と解散。言わずもがなサイコーのライブだった訳ですが…病気を経験した松本さんの「日常のありがたさ」話とか、稻葉さんの「あと何回できるかわからないけど、また絶対逢いましょう!」からのホール&レスポンスとか…ふと先ほどのお嬢さんを思い出し、確実に時の流れを噛み締める。変わらないものなんてないんだよなあ。心地よい虚脱感の中、人波に流されながら帰路に着く間「やっぱり生はいいよね…また行ってもいいよ」となんでか上からのオットの感想。腑におちぬものを感じつつ、今日のライブの感動を共感できた喜びとして、まあキャラにしてやろう。

有言実行。これからも善行積みますので、どうか2026年のIGアリーナも参戦できますように!

にわか編集長コメント

B's好きですね。少し前の朝ドラでB'sが主題歌を歌っていて、朝からこんなセクシーな稻葉さんの声を聞いてよいのかしらとドキドキしていました。お客様ミドルなのかあ、そうか…。



鮮度抜群! 冬タイヤ買いました。

信州への帰省のためにスタッドレスは必須。信州はなんならチェーンも備えておきたい降雪エリア(中南信はまだ降らない方ですか)。タイヤ銘柄は、検討に検討を重ねた結果、奮発してブリヂストンの新作スタッドレス。スタッドレス装着率No.1のブリザックWZ-1をチョイス。2025年11月中旬~下旬製造出来立てほやほや。ゴムの臭いが鼻につくほどに新鮮です。鮮度が良いので、柔らかく良好な触り心地。無駄にブニブニ押したくなります。新品のままで本来の性能が発揮できないため、「皮剥き」が必要になり、スタッドレスは200km以上の距離のならし走行が必要とのこと。乗り始めは転がり抵抗が強く感じ、燃費落ちそうだなという印象でしたが、ちょうど200km超えたあたりぐらいいから様子が変わっていました。…うっとりするようなしっとり感。シームレスに道路の上をす~と流れていく感じ。上質な乗り心地です。軽量オープンカーという感じが薄れ、ワンランク上のやや高級路線の乗り味を感じました。まるでベンツのSLKあたりに乗っているような静かでゆったりと走りたくなる乗り心地(安全でなお良し)。本来、自分は乗り心地の良い車に乗りたかったということを思い出した次第(何故ローダウン&スポーツダンパー装備の足ガチガチに固めた車に乗っているのか自問してしまいます)。

この乗り心地に加え、冬の寒空の中フルオープン(屋根)、エアコン&シートヒーターをフル稼働。オシャレなBGMとともに走れば露天風呂気分でchillタイム。最高の癒しです。

タイヤにコストをかけてあげることで、価格以上の価値を得られると感じます。日々のドライブのクオリティが上がり、加えて安全運転にも寄与してくれるので、まさに一石二鳥。かけるべきところにはお金をかけるべきと実感した次第です。

にわか編集長コメント

冬タイヤに用がない地域に住んでいることの幸運を感じる季節。寒空にオープンカーの気持ち。私は風呂場の窓を開けて楽しんでいます。湯温は熱め42度。暖房の効いた室内でアイスもchillですね。



健康診断!

♪ありのままの姿見せるのよ

ありのままの自分になるの♪

昨年の健康診断は、テーマを「アナと雪の女王」とし、自分がエルザになった気で体重計にのった。その結果、歌ってる場合じゃないだろと自分で自分で突っ込む今まで生きてきた中で自分史上最高記録を更新した。体感的に予想どおりだったのだが。

そして、またこの季節が。太っていると言っても不健康じゃないしと思う自分がいて、一年間何の努力もしなかった。太って困っていることといったら、腹回りが尋常じゃなく太い(洋梨のよう)ので膝から下の行動に支障をきたしている。

1. 靴紐が結ぶのが困難
2. 靴下を履くのが困難
3. 足の爪を切るのが困難

困難なのだが何とかできているので瘦せようまでいかない。

そんな私、今年の健康診断の一ヶ月弱前に生まれて初めてインフルエンザにかかりました。インフルエンザ自体は、熱が出て何日間横になって快復したのだが、その後に咳が止まらなくなってしまい体力を結構消耗した。そのせいかわからないが今年は、体重を更新することがなかった。更新することはなかったが体形はたぶん維持しているのである(自慢じゃないけど)。

そうだ! 太っていて困難なこと、仕事上で一つだけありました。社内にあるオーデマンド機の裏にあるスイッチ。ごくごくたまに再起動のために押さなくてはならないがこのスイッチと壁の距離がめっちゃ狭い。このスイッチを押せなくなった時、私は白いマイクをステージに置く山口百恵になるのであろう。

にわか編集長コメント

面白すぎてコメントするのがもったいないです。ちなみに私は産後からアベレージプラスマイナス2kgを維持。洋服を買い直したくないがため。太れる人はおおらかで豊かで好ましいと思います!

mide column



ミデコスタッフが、
それぞれの個性を
生かしたコラムを連載中!

今月のにわか編集長
牧原 恵



ishin-denshin の編集長は全社員の持ち回り制。特集ページの執筆や、みんなのコラムにコメントをつけるほか、今月号発行の責任を担っています。

ダブルコートなの!



編集アシスタント: ゆきちゃん

あたしって、
オーバーコートと
アンダーコートの
二種の被毛なの。
だから防寒対策
ばっちりなのよ!

ミーハーですがなにか

大河内 和幸 vol. 161

かみ合いすぎた戦力

2002年巨人軍考

にわか編集長コメント
野球、まるで詳しくないですが、チームスポーツにビジネスをなぞらえる気持ちはわかります。仕事もチームワーク。私たちも日々の仕事を丁寧・真面目に積み上げましょう！

物心ついた頃からのジャイアンツファンだが、最近はめっきりプロ野球を見なくなってしまった。代わりには毎日といつていほどテレビやラジオからはドラゴンズ情報を見たり、心を奪われそうな土俵際でなんとか持ちこたえている。そんな中シーズンも終了した各プロ野球チームはこの時期、ファン感謝祭なるものを開催することが多い。我が巨人軍もジャイアンツ・ファンフェスタが開催したというではないか。2002年シーズundiaba、原辰徳監督第一次政権の1年目。86勝52敗2分、勝率62.3%、2位のヤクルトスワローズには11ゲーム差をつけ、圧倒的な強さで優勝したシーズンだった。さらに日本シリーズでも西武ライオンズ相手に4連勝で見事日本一に輝いた年でもあり、2002年の巨人軍はまさにドリームチームだつたことをふと思い出した。そんな伝説的なメンバーたちを少々思い出してみた。

開幕スタメンは1番レフト二岡、2番セカンド仁志・3番ライト高橋由・4番センター・松井・5番ピッチャーという10回を記録したこのパターングがベストオーダーということになるが、なんとそのイベントの延長戦として『2002年優勝メンバー同窓会』を同時に催したのではないか。2002年シーズundiaba、原辰徳監督第一次政権の1年目。86勝52敗2分、勝率62.3%、2位のヤクルトスワローズには11ゲーム差をつけ、圧倒的な強さで優勝したシーズンだった。さらに日本シリーズでも西武ライオンズ相手に4連勝で見事日本一に輝いた年でもあり、2002年の巨人軍はまさにドリームチームだつたことをふと思い出した。そんな伝説的なメンバーたちを少々思い出してみた。



旨味というより香り高い海老の風味が重要。他の出汁と合わせて鍋や煮込み、シーフードカレーなどにもぜひ。

めぐブーの！ 蒲郡の！ 地魚を食べよう！

テーマ：アカシャエビ
調理法：ピスク

【材料 約4人分】	
アカシャエビの頭と殻	1パック分
酒(あれば白ワイン)	小さじ2~3
バター	20g程度
玉ねぎ(薄切り)	中1/2個
にんじん(薄切り)	1/2本
ニンニク(薄切り)	1/2かけ
トマト缶	1/3缶
牛乳	1/4カップ
あれば生クリーム	適量
塩・胡椒	お好みで

にわか編集長コメント

幼い頃、祖母が私の髪をすることに撫でて褒めてくれたことを思い出しました。昔は長くしたり刈り上げたり遊んでましたがここ数年マンネリしているかも。皆さんどうでしょ？

にわか編集長コメント

人で言えば改名ですしそれは相当の勇気ですよね。覚悟を決め配偶者の姓を名乗り、あるいは離婚して元の姓になり、人生は進む。社名変更もその歩を進める大きな手立てに違いありませんね。

一に日はく道

水野 順也
vol. 160

2005年6月5日社名変更から半年が経過しました。実

際の計画から約一年間を要し、やっとその日を迎えた当時の想いは「ワクワク」しかありませんでした。不安がなかったのは、既に自分の中で消化？昇華？していたからです。

社名には、経営者や社員だけでなく、長年支えてくださったお客様や先代の歴史、想い、愛着が詰まっています。社名変更には「変わらぬ安心」「経営者の感情的な抵抗感」と「過去に戻れない覚悟」と同意義の「未来への宣言」が伴います。しかし既に自分自身の中でも葛藤しながら、確信を探りながら消化しましたので、やる決心した一年前にはもう「未来志向」しか残ってなかつたということです。

半年経つた現在は、「社名変更したんだ?」「くらいの平常な気持ちです。葛藤していた当時の感情は全くありません。幸い告知活動もしつかりできたおかげで、社名変更に対する顧客とのズレや違和感もない感じでいます。また、新しい相談や依頼もいたたいており、今後が楽しみです。しかし、正直なところ不安がないかというとそうでもない。未来志向に舵を切ったことで、現在の仕事内容に達成感はなく、満足はできていません。再定義したこと、現時点では満足できないのが経営者かもしれません。



第113回 食事処 三新

(蒲郡市三谷北通)

Yamamoto Adachi
with



のどかな三谷の住宅街に突如現れる老舗の(恐らく)定食屋さん。社長はチキンカツ、山本さんは刺身定食、私はロースカツ定食をいただきました。来店時はしばし後、レジ奥の広い厨房から上品な定食が運ばれてきました。私たちだけでしたが、正午過ぎから地元と思しきお客様が次々とご来店。長く続く飲食店は、やっぱり地元のお客さんがたくさんついているんですね。ロースカツ定食、とても美味しいいただきました。(文:足立)



2025.12.7 Sun.

[file. 113]

coco rice pain

今年の1月はじめにオーフン
した、米粉がは0%の
喫茶店です。
まだ気には
なっていませんが
遂にオープンまでです！

クロワッサンとメロンパンを購入しましたが、
どちらもすり、もっちり、小麦粉の味とは
全く違った美味しいのが楽しめます！

場所はあじゆいの里の
すぐ脇で、6月には
きれいなあじゆいを眺めながら
ゆっくりできとう
です。④

ぜひお試し
あれへ



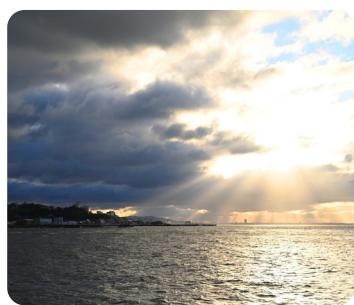
店名はフランス語で
COCO…お気に入り
rice…お米
pain…パン
みてどうぞ😊



にわか編集長コメント

米粉パンのクロワッサン、めっちゃ食べてみたいのでぜひ行きます！形原温泉エリア、オシャレなお店がポツポツ集まってきたのでエリアに別のニックネームをつけたいくらいですね。

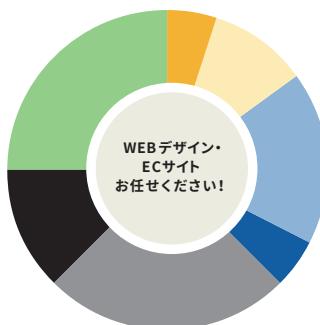
表紙の裏話



荒海の日の出

通常穏やかな三河湾が珍しく荒れ気味でした。波飛沫と八百富神社鳥居のコラボはなかなかアレアではないでしょうか。撮影しつつもレンズに飛沫が飛ばないよう、ギリギリの距離感で撮影しました。遠くに望む豊橋上空の天使のはしごが印象的。撮影者：山本兼佑

主要仕事実績（企画・デザイン）



- ウェブサイト・LP
- WEB広告・フォーム
- SNS更新代行
- デジタルスタンプ
- パンフレット・冊子
- ポスター・チラシ・DM
- 看板・のぼり・パネル

編集後記

みかんや温泉やポートレースでない蒲郡の魅力を掘り下げたいと思い、今回は地元で比較的小規模に事業をされている事業者さんにお話を伺いました。名古屋や新幹線駅へのアクセスもよく、全国にお客様がいるような事業であれば、むしろこの蒲郡の自然豊かな環境が、お客様にご来訪いただく際には逆におもてなしにもなるとのこと。次号、同特集の後編を掲載します。よろしければまたぜひご一読ください。（牧原恵）

